

## 国際化学肥料ニュース（2023年2月）

### 肥料業界の2021年2月動態

- \* ネパールの国営 AICL 社の発表によれば、1月30日までにインド政府を經由して購入した3万トン尿素がすべてネパールに入庫した。昨年、ネパール政府とインド政府が化学肥料の輸入契約を締結した。その内容はネパールが化学肥料の輸入をインドに依頼することである。2023年はさらに390億ルピー（約4億6800万ドル）を支出して、2万トン尿素、2万トン DAP と 5000 トン塩化加里を購入する計画である。
- \* 1月第5週（1月30日～2月5日）の尿素国際市場は動きが活発となった。北アフリカの尿素メーカーが在庫製品を捌くために安売りに出た。エジプトでは FOB395～410 ドル/トンで約6万トン大粒尿素を契約して、アルジェリアも FOB400～405 ドル/トンで7.5万トン大粒尿素を契約した。中東の Fertiglobe 社は FOB407 ドル/トンで買手を探しているが、ほとんどの買手は FOB380 ドル/トンで応酬するという。  
アメリカとブラジルは需要が少ないため、小粒尿素の CFR 価格が 370 ドル/トンに下落した。
- \* 2月第2週（6～12日）の尿素国際市況が下落し続けている。予想されていた1月末または2月上旬に行うインドの尿素国際入札がなく、ブラジルもオフシーズンに入り、尿素を大量購入する意欲が見られないため、主要輸出国の尿素 FOB 価格が軒並みにトン当たり 300 ドル半ば以下に下がった。特にロシア産とイラン産尿素が FOB300～330 ドル/トンになり、2020年12月のレベルまで下落した。CFR 南米ブラジルとメキシコの価格も 370～390 ドル/トンまで下がった。
- \* 昨年12月から始まったインドと大手加里メーカーとの2023年塩化加里輸入基本契約が大詰めになって、2月末～3月中旬に締結するうわさがある。また、塩化加里の国際相場の低下により、基本契約の CFR 価格が昨年（2022年）の 590 ドル/トンから一気に 440～450 ドル/トンに引き下げるようだ。
- \* 2月第3週（13～19日）の尿素国際相場が引き続き下落していく。エジプト産大粒尿素の最新 FOB 価格が 370～380 ドル/トン、中東産大粒尿素の FOB 価格が 335 ドル/トン、ブラジルの大粒尿素 CFR 価格が 330～335 ドル/トンに下がった。2月初頭に行ったインドネシア Pupuk 社の大粒尿素入札に応札価格が 350 ドル/トンになり、先月の 400 ドル/トンより 50 ドルも下がった。特にロシア産尿素は FOB バルト海と黒海の価格が 275～300 ドル/トンで、2020年12月の水準に落ち込んだ。

その原因は二つある。一つは需要不足で、最大需要家のインドは予測されている2月初頭の尿素国際入札がなかなか実施されず、インド政府の化学肥料補助金が4月1日以降に発効されることもあり、インドの尿素国際入札が3月下旬以降に延期されるだろうとの観測が強くなってきた。ブラジルやアルゼンチンの南米はすでにオフシーズンに入り、尿素的需要が落ち込んだうえ、バイヤーが尿素的相場下落を予測して、購買意欲が起きない。二つ目はヨーロッパの天然ガス価格の急速な低下である。2月中旬、ヨーロッパの天然ガス価格が17か月ぶりに50ユーロ/MW以下に下がって、昨年8月の最高値より80%も下落した。これによりヨーロッパの窒素肥料生産コストが大幅に下がり、停止した化学肥料工場が再稼働して、輸入依存度が減少した。

- \* 2月22日、インドIPL社は今年2回目の尿素国際入札を発表した。購入予定数量100万トン、3月3日締め切りと開札、6月1日まで船積という条件である。
- \* 2月23～24日、中国窒素肥料工業協会は春季窒素肥料座談会に2022年中国窒素肥料の生産と消費に関するデータを公表した。2022年中国窒素肥料生産量(N換算)が2.6%増の4131万トン、尿素実生産量が3.6%増の5761.3万トン。国内窒素肥料消費量(N換算)が8.1%増の3638.7万トン、尿素実消費量が8.7%増の5478.7万トン、そのうち農業分野の消費量約3500万トン、残りは工業用である。尿素輸出量が46.6%減の283.1万トン。  
また、2022年に尿素新規生産能力200万トンを増加した。2023年にさらに250万トンの新規尿素生産設備が完成される予定である。

### 大手各社の営業業績

- \* カナダのNutrien社は2022年の業績を発表した。売上高が37%増の378億8400万ドル、EBITDAが71%増の121億7000万ドル、純利益が24%増の76億8700万ドル。主力の肥料部門では、加里肥料販売量が8%減の1253.7万トン、窒素肥料の尿素が10%減の275.7万トン、硝酸系肥料と硫酸系肥料が4%減の455.1万トン、りん酸肥料が8%減の169.6万トン。ただし、肥料販売価格の大幅上昇で、売上高と純利益を押し上げた。
- \* アメリカの窒素肥料メーカーCF Industries社は2022年の業績を発表した。尿素など窒素肥料の販売価格上昇により、売上高が71.1%増の111億8600万ドル、EBITDAが114.4%増の58億8000万ドル。イギリス事業を再編したため、純利益が3億3500万ドルしかない。

- \* アメリカの Mosaic 社は 2022 年の業績を発表した。肥料部門では加里肥料販売量 810 万トン、りん酸肥料販売量 660 万トン、化成肥料販売量 940 万トン、ともに 2021 年より若干減少したが、販売価格の高騰で、総売上高が 55%増の 191 億ドル、粗利率が 30%に達し、純利益が 120%増の 36 億ドル。EBTIDA は 73%増の 62 億ドル。
- \* イスラエル ICL 社は 2022 年の業績を発表した。主力の塩化加里生産量が 3.9%増の 469.1 万トン、販売量が 1.5%増の 449.9 万トン。加里肥料販売価格の高騰で、売上高が 44%増の 100 億 1500 万ドル、営業利益が 191%増の 35 億 1600 万ドル、純利益が 185%増の 23 億 5000 万ドル、EBITDA が 138%増の 40 億 700 万ドル。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* 中央アジアのタジキスタンに初の尿素工場が完成され、3 月に正式稼働することになる。当該工場は尿素生産能力 20 万トン、全量国内に消費されるという。
- \* カナダの First Phosphate Corp. は、ケベック州 Saguenay-Lac-Saint-Jean 地域にある Bégin-Lamarche 鉱山プロジェクトの鉱石分析結果を発表した。この鉱山から試掘りした鉱石には 6.81%の酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) のほか、最大 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 含有量 18.92%のリン酸を含んでいる。火成岩の鉱脈は 2.5 km x 400 m で、これからさらに調査を加え、開発を進める方向である。また、2 月 22 日、同社の探査掘削プログラムを開始したことを発表した。
- \* 2 月 23 日、中国窒素肥料工業協会の理事長は会議で、下記のデータを公表した。2022 年末の中国尿素生産能力 6634 万トンに達し、2023 年にいくつかの新規生産ラインが完成し、さらに 492 万トンの生産能力が増加する。5 月には 50 万トンの生産ラインが完成し、稼働することがすでに確定され、残りは下半期に完成・稼働するという。
- \* 2 月 17 日、中国の蔵格鉱業社はラオスで加里資源を開発するために傘下の 2 子会社を通じて、ラオス政府と加里資源探索と投資開発契約を締結した。加里資源の開発予定地は首都ヴィエンチャン市の近郊で、面積約 400km<sup>2</sup>、塩化加里資源埋蔵量約 6 億トン、2023 年末に探鉱完了、2024 年に詳細の開発計画を作成と提出、2025 年から採鉱井戸を建設、2026 年に年間 200 万トン塩化加里の生産能力を有する第 1 期工程の完成と稼働開始という計画である。

### その他

- \* チリの Enaex SA 社は太陽光発電と風力発電を利用してグリーンアンモニアを生産するプロジェクトを立ち上げた。日本の東洋エンジニアリング社が FEED (Front-End

Engineering and Design) 業務を請け負い、アンモニア合成は KBR 社の技術を採用する。

- \* 中国りん酸肥料と複合肥料工業協会の事務局長李光氏は、中国の化学肥料輸出が規制されることで、2022 年の稼働率が下がって、りん酸肥料生産量が 12%以上減少したと述べた。また、ロシアによるウクライナへの侵攻に起因した原油と天然ガス供給不足によりエネルギー価格高騰が次第に収まり、世界の化学肥料生産に及ぼす影響も沈静化した。ただし、2021 年 10 月から実施された中国の化学肥料輸出「法定検査」により、りん酸肥料の国際貿易ルートに大きな変化が起きて、中国りん酸肥料輸出には困難な局面と対峙する可能性がある。中国メーカーに対して、中国のりん資源に限りがあるうえ、輸出による過剰生産能力の解消が持続できないので、りん酸肥料の生産規模縮減の現実を受け入れる覚悟が必要だとも警告した。
  
- \* アメリカの CF Industries 社は韓国のロッテケミカル社と共同でアメリカのルイジアナ州にグリーンアンモニアを生産し、長期的に韓国に輸出する覚書を締結した。